

第 4 回鎌倉市総合計画審議会 会議録

- 日 時：平成 24 年 11 月 29 日（木）午後 3 時 00 分から 5 時 15 分まで
- 場 所：本庁舎 2 階 議会第 2 委員会室
- 出席委員：大住会長、山田委員、安齊委員、波多辺委員、神川委員、阿曾委員、山崎委員、薄井委員、波多委員、植月委員
- 欠席委員：石井委員、岡崎委員、金川委員
- 幹 事：相川経営企画部長、奈須経営企画部次長、小嶋経営企画部次長、渡邊経営企画課担当課長、下平経営企画課担当課長
- 欠席幹事：なし
- 事 務 局：関経営企画課課長補佐兼経営企画担当係長、経営企画課経営企画担当 3 名（高橋、安富、平澤）
- 関連職員：なし
- 関連業者：2 名（トーマツ）
- 傍 聴 者：なし
- 会議次第：
- 1 議題
 - (1) 現在の取組状況について
 - (2) その他
- 配付資料：
- | | |
|---------------------------------------|------|
| (1) 第 2 回鎌倉市総合計画審議会会議録 | 資料 1 |
| (2) 第 3 回鎌倉市総合計画審議会会議録 | 資料 2 |
| (3) 第 3 次鎌倉市総合計画 基本構想一部修正及び次期基本計画策定方針 | 資料 3 |
| (4) 市民意識調査 一式 | 資料 4 |
| (5) 次期基本計画策定に向けた施策体系の整理一覧表 | 資料 5 |
- 会議記録：
- 会長 ただ今より「第 4 回鎌倉市総合計画審議会」を開催いたします。始めに、本日の出欠状況について、事務局からご報告願います。
- 幹事 本日の審議会は、10 名のご出席をいただいております。本審議会規則第 3 条第 2 項の規定によりまして、会議が成立していることをご報告申し上げます。なお、石井委員、金川委員、岡崎委員につきましては、ご都合により欠席される旨、ご連絡を頂戴しております。
- また、ここでご報告を申し上げます。先般の市議会 9 月定例会におきまして、市議会議員が諮問機関等の委員として参加する場合の取扱いについて見直しが行われました。この際、法律により議員参加が義務付けられている場合を除いて、諮問機関等に参加しないこととなりました。これに伴いまして、総合計画審議会を規定する条例を一部改正いたしまして、総合計画審議会の委員から、市議会委員を削除させていただいております。これまで議会選出によりご出席をいただいております、伊東委員、山田委員につきましては、9 月 27 日をもちまして、委員の任を解かせていただくことになりましたので、ご報告させていただきます。以上です。
- 会長 ありがとうございます。出欠状況についてよろしいでしょうか。続きまして、傍聴者の希望について、事務局から説明願います。
- 幹事 本日、傍聴者 1 名の申し出をいただきましたが、お見えになっていないため、いらっしやうした際に対応いたします。
- 会長 分かりました。次に、配付資料の確認について、事務局からお願いします。
- 幹事 本日も配付しております資料の確認をさせていただきます。次第、資料 1「第 2 回鎌倉市総合計画審議会会議録」、資料 2「第 3 回会議録」、資料 3「第 3 次鎌倉市総合計画基本構想一部修正及び次期基本計画策定方針」、資料 4「市民意識調査一式」、資料

5「次期基本計画策定に向けた施策体系の整理一覧表」でございます。また、本日、パワーポイントを使い、説明をさせていただく予定であり、パワーポイントの資料につきましても、配付しております。以上です。

会長 続きまして、会議次第に入る前に、前回の第2回と第3回の会議録につきまして、事務局より説明願います。

幹事 第2回と第3回の会議録(案)につきまして、9月に各委員宛に送付させていただき、修正の有無を確認させていただきました。本日配付いたしましたのは、いただいたご意見を反映させた最終案となっております。ご了承いただき、確定させていただきたく、審議をよろしく願います。

会長 直ちに確認と言われましても、ちょっと量がありますので、会議の合間にご覧いただき、最後の時間に確認することよろしいですか。

幹事 はい。結構でございます。

会長 それでは、会議次第に戻りたいと思います。本日の議題は2件で、「(1)現在の取組状況について」、「(2)その他」となっております。

議題(1) 現在の取組状況について

会長 はじめに、議題(1)について、事務局から説明願います。

幹事 当初お知らせしておりました予定議案は「未来を共有する場づくり等の結果について」ということでございましたが、それを含めまして、この9月から3カ月の間に、私どもが事務を進めておりました取組状況につきまして、その全般について、ご説明を申し上げたいと思います。内容といたしましては、取組の時系列的にご説明を申し上げます。ひとつは人口・財政に関わる基礎調査でございます。それから、市民意識調査、未来を共有する場づくりについて、次に、総括評価について、最後に、計画のイメージ・全体構成本編の4件でございます。1件ごとに区切ってご説明をさせていただき、ご意見ご質問をいただければと存じております。

はじめに、基礎調査につきまして、委託業者でありますトーマツからご説明を申し上げます。

トーマツ (パワーポイントを用いて説明)

私からは、人口の分析と財政分析の結果について、ご報告させていただきます。

平成17年2月に人口推計が行われた後、平成24年3月に時点修正ということで、人口推計を行っており、人口推計の結果に基づいて分析を行っております。平成17年2月から24年3月の時点修正で、やや人口減少傾向が緩まっています。こちらにつきましては、時価下落等々もあり、若年齢層が入りやすくなったことや、平成17年の想定よりも思ったよりも社会増が多かったということが原因となっていると考えております。

今回の分析の結果ですが、人口推計の手法として最も一般的であるコーホート要因法で推計した結果であり、平成26年度をピークとして、人口減少が予測されます。平成24年度174,186人から、今回の推計で一番遅い時期まで推計しているところの44年度で160,570人と、1万4千人のかんりの減少が見込まれております。

特に、グラフの左側を見ていただきますと、年齢別になっていますが、年齢別につきましては、特に年少人口の減少が顕著ということが見て取れるかと思えます。子育ての関係についての、幼稚園や保育所、小学校といった教育施設について、短期的には今よりは必要ということはある一方、一方で将来はどうなのかということもまた検討する必要がありますという状況になっております。

また、このグラフからでは読み取れませんが、65歳以上の人口につきましては、特に75歳以上の人口が増えるということが、詳細な分析結果としては見えます。一方、その隣のグラフが地域別となっております。地域別につきましては、地域に分けて分析をしております。地域につきましては、かなり、横ばいの地域と、下がっている地域とが分かれることが見て取れるかと思えます。例えば、大船地域はやや減少していますが、ほとんど変動がない。一方で、腰越地区では大幅な人口減少が見込まれますので、地域によって、取るべき施策が異なり、地域の特徴に合わせた施策展開が必要だということところが特徴として見られると考えております。

次に、財政につきましては、近隣他市との比較をしております。分析を色々行いましたが、分析の結果、象徴的となる4つの指標を取り上げてご説明させていただきます。

2つの表は同じ内容を示しています。上の表は、イメージとして分かり易いように、○や△で表現させていただき、生データにつきましては下の表になっています。

指標につきましては、財政力指数や住民1人当たり歳出額、経常収支比率、将来負

担比率を使っていますが、その説明につきましては、次のページに記載しております。

まず、財政力指数ですが、イメージとしては自然収入などの充実度を示すものと考えていただけたらと思います。こちらにつきましては、近隣の他市と比較しても、やはり鎌倉はやや高い程度となっています。それにも関わらず、財政硬直度を表す経常収支比率、いわゆるエンゲル係数のようなものと受け止めていただければいいかと思うのですが、人件費や物件費、公債費などの経費で占められている割合が、他の市と比べてもかなり高い、悪いという状態になっています。また、将来の世代の負担状況を示す将来負担比率という、いわゆる借金の度合いについても、全国と比べればそれほど高くはないのですが、近隣と比べて、少し高いという状態になっています。

これらの原因としてひとつ考えられるのは、住民一人当たり歳出額を比べるとかなり高い数字にあるということです。次に、表には見えていませんが、貸借対照表を分析した結果、公共資産に関する資産老朽化比率が 46%とかなり高水準になっており、将来における維持更新費用が多額に生じるということが見込まれるということも注意する必要があります。

もうひとつ、人口について、先ほど人口分析で、人口の減少という話をさせていただきましたが、その影響もあり、財政状況が厳しくなってくるというところがあると思います。

これらは、全国的に言われていることではないかと思われる方も多いかと思うのですが、それが鎌倉においても例外ではないということを今回の基本計画策定においても、前提に置く必要があるということをご報告させていただきたいと思います。以上です。

会長 ただ今の説明につきまして、委員からご意見、ご質問がございましたらお願いします。

委員 人口分析のところで、これは、平成 24 年を起点として、コーホート要因法で推計したということによろしいですね。そうすると、平成 24 年までの鎌倉の人口が、一時減少したけれども増え始めたという傾向は、この中にはどういう形で織り込まれているのですか。

トーマツ 織り込まれた結果、前回の推計よりも、減少傾向が緩まっているという形で反映されております。

委員 私は腰越に住んでおり、腰越が極端な地域ということで、ずっと減っていくとなっています。実は、前回の数値を見せていただいて、これはどういうことなのかということで分析をしておりました。それで、過去 10 年間位は人口が増えてきていると思うのですが、どこが増えたかということを測地的に分析されましたか。全体として、自然増や社会増という話ではなく、どこの市区町村の何丁目が増えたかといった分析はされましたか。

トーマツ それはしておりません。

委員 実は、明らかな傾向が見えるのです。このコーホート要因法というのは、そういうことまで含まれてこないことが非常に問題なのです。どういう地域が増えているかというと、鎌倉はもうそんなに空間地は多くないのですが、それでも空間地になっている山崎の辺りや、いくつかそういうところに増えていくのがひとつと、もうひとつは、特に鎌倉地域などに多いのですが、かつて非常に、一戸当たり非常に大きな屋敷がありました。ここがいわゆるミニ開発とまでは言いませんが、非常に小規模な宅地にたくさん分かれてきた。明らかにその傾向が見えるのです。そうした傾向で見た場合に、例えば腰越でそれが当てはまるかという、腰越はその時期、むしろ団地開発が後発として行われてきたという理由があり、それについてはもう空間地もほとんど無く、まだ大規模宅地が小宅地化するという、そういう時期までも来ておらず、むしろ住宅団地でこれから今減り始めている。つまり、地域によって、いわゆる人口が成熟し減っていくというスピードの違いというのがあるのです。そういうところまで分析に持ち込まないと、通常のコーホート要因法で行うと、かなり地域間で問題があるのではないかとことを私自ら分析しており、これを前提として地域別と言われて良いものなのか。鎌倉全体としてはそれでいけるかもしれないが、おそらく腰越の皆さんにお話ししたら、多分色々な反応があるということを少し危惧します。

委員 今の地域別に言いますと、確かに傾向としてはだんだん下がっています。深沢地域ですが、深沢は JR 跡地の地域の区画整理の計画が、実際に今、進められています。実施までにはまだ少し時間が係ると思うのですが、その計画の中では、全体の中で、人口についても確か 4,000 人増という推計が出ているはずですが、それは、実際ここに織り込んであるのでしょうか。おそらく、ないのではないかと思うのですが。今の計画については、平成 27、28 年あたりに進めていこうという計画があるはずですが。皆さんご存知だと思うのですが。そういう部分を含めて、この人口推計というのが、特殊な部分ですから、それを含んだ上で推計をされているのかどうかお聞きしたい。

幹事 今回の推計につきましては、深沢の開発で見込まれる人員増は含んでございませ

(案)

ん。と申しますのが、まだ深沢の土地の使いみちと言いましょうか、どういう商業施設が入って、どの程度の住民地区とするかということが確定していないものですから、現在のところでは見込んでごさいません。

委員 この間、私が出席した都計審で、深沢の再開発、換地の関係も含めて説明がありました。確かに、今度 JR の新駅構想ができない限りにおいては、計画も進まないと思うのです。その計画を含めて、今着々と取られている準備的な作業は進めています。どこに住宅地域ができて、商業地域ができるかという構想は、おそらく皆さん知っていると思うのです。その中で住民の増というのも具体的には 4,000 人くらいは増になるという、具体的にその計画はあるはずです。ですから、いずれこの計画というのは見直しがされてくるとは思いますけれども、今、具体性というのがはっきりしないというのは事実だと思うのですが、今後具体的になれば、この推移の見直しというのは当然図られてくるものと理解してよろしいですか。

トーマツ はい。

委員 分かりました。

委員 ひとつ教えていただきたいのですが、2 番の財政分析のポイントの頭のところで、住民一人当たりの歳出額が近隣に比べて極めて高いという、その要因、あるいは背景のを教えていただけますでしょうか。

トーマツ 色々あるのですが、大きいところを幾つか取りますと、みどりの関係の緑地の買取や、史跡の関係、ごみリサイクル関係につきまして、比較的他市と比べても大きい要因です。また、公共施設も比較的多いと思います。このようなところを要因として把握しております。

幹事 また、固定的経費といたしまして、人件費や物件費といった部分につきましても、経年的に一定割合で費用として計上せざるを得ないような状態もございます。そういった部分がありまして、一人当たりの歳出額が他市に比べて高いという形になっております。

会長 財政分析についてですが、私も良く分からないので教えていただきたいのですが、今回のデータは平成 22 年度という一時点のデータなので、これでどうこうというのは非常に難しいのではないかと思います。もう少し、過去のデータを取ってみると、例えば、どうして財政力指数がそれなりに高いのに、経常収支比率が高い水準で留まっているのかなど、そうした背景が見えてくると思うのです。

先ほどのトーマツさんの説明で、住民一人当たりの歳出額が高まってしまったということですが、言われたことはおそらく、経常収支比率の分子に入るものではないことを言われていたのだ、あれ？と思ったのです。おそらく、経常収支の分子に入る、経常的に毎年毎年支出しなければならない人件費や扶助費、あるいは公債費といったところが、結構なぜか大きい。なぜかと質問をしたとしても分からないでしょうが、そのようなところが多分、財政力指数が高いにも関わらず、鎌倉市の財政が厳しい状況にあるという、ひとつの要因であると思います。

もう一つは、公共施設の維持管理費用が、多分将来的にはかなり鎌倉市の財政を圧迫しそうな状態になっていて、この審議会でも議論することとはちょっと違うことと思うのですが、要するに、結構豊かなのだけれども、首が回らない、自由度がないという窮屈な財政状況になっている。行革の委員会ではないので、その様なことを細かに突き詰めてどこを切る、どこを削減するという様なことをここではやるべきではないと思いますが、ただ、色々なことがありそうな気がするのです。いかがですか。

トーマツ まず、資料でお示しさせていただいているのは、平成 22 年度のみですが、バックデータとしては経年で比較も行っております。その中でお出ししているのが、平成 22 年度ということです。経常収支比率に影響を与えるところの人件費、物件費、公債費がポイントとなるということもそのとおりかと思います。

委員 今の質問に対して私が答えるのも変ですが、少し付け加えさせていただくと、鎌倉市が黒字財政であるにも関わらず、市財政が厳しいのは、固定的経費が多いからですが、それには鎌倉市の特殊要因があると思います。例えば、狭い市域であるにも関わらず、消防署が 2 つありますし、消防署の出張所も通常よりかなり多くあります。これは、鎌倉市の場合、神社仏閣等の重要文化財が多くあり、かつ、道路幅も狭いため、万が一の場合の措置として必要だからです。当然、それに掛かる人件費や設備等の維持管理費が増えることとなります。また、高齢者の比率も県内有数の高さで、これに伴う福祉的な経費の扶助費や職員も必要となります。

それから、トーマツの説明者が、人件費が高いと言っておりましたが、誤解があるといけないので補足すると、支出全体に占める人件費は高いのですが、現時点において

- 一人あたりの人件費は、県内でも低い位置にあると松尾市長も言われております。
- 会長 これは単純な質問なのですが、今回の総合計画の策定にあたり、財政推計が行われますか。計画期間の歳入見込み、もちろん歳出も関係しますので。
- トーマツ 検討中です。
- 幹事 基本計画の策定に際しては、今現在の財政の分析をさせていただきます。基本計画と同時にスタートする実施計画は 3 年間、基本計画が 6 年間という期間になりますので、6 年間の財政推計は行っていく予定です。
- 委員 今、委員がおっしゃったことで、すごく理解が進んだのですけれども、一人頭幾らという大雑把なデータを見せられても、この後、例えばワールドカフェで皆さんが何をもっとお金かけて欲しいかなどが出てくる時に、今どうなのかが分からないので、高齢者の方への手厚さが大きすぎて、まちづくりに回っていないとか、そのような検討の基本となる情報がここにまったく見えてこないの、これを見て次の項目の説明に行かれても多分、検討のしようがないというのが正直な感想です。いかがでしょうか。
- 幹事 本日、人口の係と財政の係の概略ということでご説明しまして、確かにお伝えする内容が少し足りない部分もあるかと思います。今、財政及び人口につきましては、報告書をまとめているところですので、次回、一次素案の審議をいただく際には、正本としたものを皆様のお手元にお配りし、それを見ながら一次素案の検討をしていただける様に準備いたしますので、よろしくお願いいたします。
- 会長 少なくとも、先日行われたワールドカフェに参加された方については、市の現状が分かる様な分野別や、具体的なケースに基づく情報は提供されているのですよね。その上でなされていると、私は理解しています。
- 幹事 ワールドカフェにおきましては、市民向けのワールドカフェと、昨日開催しました市民団体を対象としたワールドカフェを実施しております。その際は、市長から、市の財政状況、市の財政を圧迫している人件費の状況といった部分につきまして、市民の皆様にご説明をした上で、議論に入っていたという形になっておりますので、市の現状と課題につきましては、ご説明をした中で議論を頂戴したと考えております。
- 会長 ということですので、ここであまり時間をとっても仕方ないと思いますので、先に進めさせていただきます。引き続き、事務局より、2 番目の説明をお願いします。
- 事務局 (パワーポイントを用いて説明)
- 9 月からこれまで取り組んできました、市民意識調査と未来を共有する場づくりについてご報告いたします。
- はじめに、前回の総計審におきましてアナウンスをさせていただきました、市民意識調査ですが、このスライド番号 10 のとおり、その後 9 月末から 10 月にかけて、18 歳以上の市民 2,000 人を対象に実施いたしました。回答数は 855 件、回収率は 42.7%でございました。私どもが毎年行っております、基本計画の進行管理を目的としたアンケートに比べて、若干ちょっと低い回答率となりました。また、アンケートにお答えいただく方のために、参考となる資料をホームページでご覧いただけるように工夫するなど、回収率の確保に努めました。
- 資料の中身につきましては、資料 4 になります。前回の総計審でも、ご指摘いただきました調査の鑑文に、計画策定の背景として、大変厳しい財政状況にある旨を記載してございます。
- 具体的な内容につきましては、スライド番号 11 のとおり、最終的に 27 の分野、86 の施策について、重要度と満足度を 5 段階で伺いました。その分析を行ったのが、スライド番号 12 のグラフになりますが、細かくて分かり難いかと思いますので、A3 に拡大した 1 枚資料をつけてございます。こちらをご覧いただければと思います。記載の番号は市民意識調査のアンケートの項目番号、1 の「平和推進事業の充実」から始まり、86 までの番号と一致をしております。例えば、右上を見ていただきますと、40～45 番につきましては、実は「地域安全」の分野なのですが、これは概ね、重要度が高いと認識されていますが、満足度は低めなので、市として不足している分野といった捉え方ができます。重要度も満足度も高いエリアに 7～9 番が入っていますが、これは「歴史環境」の分野なのですが、「歴史環境」の中で 1 つだけ、10 番が満足度は高いけれども重要度が低いエリアに位置付けられています。これは、「世界遺産登録の整備・活用」なのですが、これだけは低いエリアに来てしまっています。市民の皆様の世界遺産登録に対する捕らえ方を示しているのではないかという印象を受けました。
- なお参考までに、スライド番号 13 と 14 では重要度と満足度別の順位を示しております。繰り返しになりますが、上位 3 位までを防災関係が占めています。また、10 位までの中に、安全・安心に関わるものが 7 件含まれる結果になっています。

最後に、資料4の8ページに問2と問3がありますが、こちらでは将来に向けて取組を強める必要があると考える、86の行政施策と27の分野について、選択をしていただく設問となっています。86の個々でも回答していただいたのですが、その中でもどれが重要かという順位になっております。問2につきましては、1位が「地震対策の充実」、2位が「史跡の保存・整備」と、概ね先ほどの重要度・満足度の分析結果と沿った結果となっております。満足度と重要度いずれも高いところをさらに強めるべきといったような項目が出てきております。

一方、問3の27分野の設問では、1位がやはり「地域安全」、2位が「福祉」、3位が「教育」となっており、これも概ね重要度ランキングと差異が無い結果となっております。今後ですが、さらに年齢別、世帯別、地域別等とのクロス集計・分析を行い、基本計画の一次素案に反映させていくことは勿論ですが、厳しい財政状況の中で、施策に強弱をつけて、特に次の6年間で注力する施策を導き出すために、この資料を活用していきたいと考えております。

続きまして、11月18日に実施しました、「未来を共有する場づくり」の一環であり、市民ワールドカフェについて簡単に説明をいたします。説明用のスライドですが、結構分量があるため、当日の写真につきましては参考までに掲載いたしましたが、ご紹介は割愛させていただいて、本日はポイントを絞ってご説明させていただきます。

スライド番号21をご覧ください。今回の参加者ですが、当初は市民意識調査に回答いただきました方を対象に170名を予定しておりました。しかし、応募が少なかったことから、最終的に自治・町内会にお願いをいたしまして、日頃市政にご参加をいただく機会の少ない方を対象にご推薦をいただいて、最終的に85名の応募者数となりました。内訳は記載のとおりです。年齢構成には少し偏りがありますが、今回は無作為2,000人を対象とするの方針の結果であり、当日はできる限り、若い方がテーブルに1名入るように調整を行ったり、質問を工夫するなど配慮をしたつもりでございます。

当日ですが、スライド番号25、26のとおり、4つの個別テーマで話し合っていたいただきました。特に今回、計画期間中に取り組む施策を導き出したい、強弱をつけたいという意図がございましたので、最後の設問でラウンド4の様な設問をさせていただきました。ワールドカフェの冒頭で、実は市長自ら、財政や本市の現状と課題について、お話をいただいたことも影響したと思いますが、第4ラウンドでは、本市の様々な資源を活用した収入確保策に関するご意見を多くいただきました。

個別テーマで話し合った後、それぞれの参加者が書いた付箋を、スライド番号40のとおり、6つの将来目標に分類をし、その内容について共有の時間を設けました。特に付箋が多かったのは、将来目標の5番目と6番目でしたが、5番目につきましては先ほどの市民意識調査の結果と同傾向で、「地域安全」に関する付箋が多くございました。6番目につきましては、具体的に付箋の中身の意見を見ますと、世界遺産や観光などを活用した収入確保策に対する取組の意見が多くございました。やはり、先ほど市長が財政状況厳しいという話を冒頭でさせていただいたので、市民の方々に少しバイアスをかけてしまったかという感もありますが、それでも市民の方々が、本市の財政状況を認識した上で行政に求めるもの、市民の方自らができることなど、色々なアイデアを出し合っていたので、とても良かったと思っております。

また、スライド番号45のとおり、ワールドカフェ終了後のアンケートで、先ほど紹介いたしました市民意識調査の問3と同じ設問を、参加いただいた方にも行いました。そうしましたら、市民意識調査ではランク外であった観光や産業振興、市民参画・協働というものが上位になり、このワールドカフェの中ではこうしたことが重要な取組ではないかという結果が出ました。世界遺産登録、観光、産業振興などの視点から、収入確保が必要という意見が多かったという結果をそのまま反映したものと考えております。

この市民ワールドカフェのさらに詳細な分析につきましては、現在行っているところです。いずれにしても、参加いただいた方の思いやアイデア、ご意見は、他の調査結果なども合わせて、一次素案の策定作業の中で吸収してまいりたいと思っております。

続いて、その他の取組として、幾つか簡単に紹介したいと思います。まず、スライド番号47では、市民の方々と同様に、団体の方々のワールドカフェを昨日の夜、市役所で実施いたしました。参加していただいた方は、総計審で団体として参加いただいております委員さんの母体から推薦をいただいた方々になります。ご協力ありがとうございます。実は自治町内会総連合の委員さんもうらっしゃいますが、自治・町内会につきましては、市民ワールドカフェの方でご推薦をいただきましたので、今回は二重になってしまうので外させていただいて、参加者数22名、5テーブルで行いました。個別テーマは、市民ワールドカフェの3つのラウンドと同じ設問で、今回は市内で活動されている

団体の方ということで、市民力・地域力を引き出す様な設問で行いました。色々な意見が出ましたが、主なものは、団体間の連携や多世代交流の部分で、自らが動き出した、活動したいといった主体的な意見が多くある一方で、行政に対する期待や意見、要望も多く見受けられました。昨日終わったばかりですので、データ等は今後分析を行い、計画策定に活かしていきたいと考えております。

その他、市民の方々に対して、市長と語るふらっとミーティングも実施しております。特にこれは、市長自ら、特に安全・安心や少子高齢化、世界遺産を中心に意見交換を設ける場として実施しています。これまでに小学校区別に 16 箇所開催をしましたが、延べ 124 名の方にご参加いただき、さらに今日、今夜 6 時から追加で開催をすることになっております。毎回概ね 5～10 名の参加をいただいております、市長と車座になって話し合うといったものです。こちらでいただいた意見につきましても、各分野別に整理を行い、一次素案に反映させていきたいと思っております。

ここまでが、「未来を共有する場づくり」ということで様々な取組を行ってまいりました。

最後に、職員の方もワールドカフェを実施しております。スライド番号 50 のとおり、テーマを 7 つ設け、それをローテーションして 39 回行いました。話し合いの具体的な個別テーマはスライド番号 52 のとおりですが、例えば、テーマ 1 については、市民ワールドカフェとほぼ同じ内容の設問で、それを職員に対して行っており、やはり傾向としては市民の方々の発言と同じような方向性で職員も考えており、比較ができると考えています。

これら、今まで説明したことを各分野や施策ごとにデータ整理を行い、総合して一次素案の策定をする中で反映をさせていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

会長 それでは、ただ今のご説明につきまして、委員からご意見や質問がありましたらお願いいたします。

委員 アンケートやワールドカフェで、市民から意見や要望を聴くのは良いのですが、聴くことにより市民が何を望み鎌倉市として今後何をやらなくてはいけないのかが、明確になってきます。当然、市民の要望として、今回の総合計画策定にあたり反映させていかなければいけないと思うのですが、実際に可能なのか心配です。例えば、重要度ランキングで、1 位から 7 位くらいまでの分野についてとなると、ハードを中心とした地域防災ですし、満足度ランキングの満足度が低かった項目の 1 位から 4 位もハード整備不足に対する不満です。鎌倉市の財政状況、また、地域の特性で市が有効活用できる土地が少ない、道が狭いなど色々難しい条件がある中で、市民の要望等を満足させていくというのは非常に難しいだろうと思います。ただ要望が強いから総合計画策定に織り込むと言っても、現状とどのように整合性を持って、どの様に織り込んでいくのか。実現は可能なのか、大変疑問であります。市は市民から意見を聴くが、聴くだけで終わってしまうことが多い。私が委員を務める市交通計画検討委員会でも平成 7 年にアンケート調査を実施しました。その中で、鎌倉市の交通渋滞が耐え難いほど深刻であると答えた人が 37% いました。また、安全で快適な歩行環境をぜひ作ってほしいという要望が 71% もありましたが、調査から 17 年間経っても市はほとんど何の対策も取っていないというのが現状です。

私は、市民から意見を聴くのは良いが、聴きっぱなしにしないでいただきたい。市民は、市に改善してくれることを期待して要望を述べているので、鎌倉市としてそれだけ責任があるということを認識し、整合性のある素案を作らなくてはいけないというのが、まず 1 点です。

もう 1 点は、重要度ランキングについて、世界遺産登録、世界遺産登録の整備・活用の重要度が低い中の 2 位にあります。私としては、世界遺産登録について折に触れ協力しておりますが、市民としては、世界遺産についてはさほど重要とは思っていないことがここに出ています。それにも関わらず、今日の読売新聞に、世界遺産関係で 4 億 8 千万円の補正予算を組むことが発表されておりましたが、市民の重要度が低いと言いながら、そこにこれだけの予算を付けることは、市民の意見と行政がやろうとしている方向性が全く逆であり、その整合性をどのように取っていくのか伺いたい。つまり本来、調査は総合計画策定作業の前に実施すべきことであろうと私は思います。

幹事 色々な市民のご意見や材料をまず集めて、その後計画を策定するというのは、委員のおっしゃるとおりだと思います。これは、市役所側の都合と言われてしまえばそれまでなのですが、今の財政状況や、防災・減災の取組を進めなければいけないという条件もございまして、今回は計画策定を急がせていただいております。ですから、ある意味、順番でやらなければならない部分につきましても、並行して進めさせていただいて

いる状況でございまして、色々な部分で厳しい部分もあるのですが、必ず整合させて、ひとつの計画書としてまとめあげていきたいと思っておりますので、ご理解を頂戴できればと思っております。

また、重要度ランキングは、防災・減災の関係の項目が非常に高い位置を占めております。私どもも、多分そうなるのかなと思っていました。防災・減災ですが、鎌倉市の実情にあった防災・減災対策を考えていかなければならないと思っております。防災・減災につきましては、別のセクションで今、地域防災計画を見直しているところですが、どちらにしましても、例えば、海岸沿いに防潮堤を建てるという様な防災・減災対策にはなり難い地域性があると思っております。ですから、災害が起きた段階でいち早く避難をしていただく方法や、ソフト対策も含めた防災・減災対策というものを、今後数年は進めさせていただければと、私どもの方では考えております。

そして、ご指摘をいただきました交通の関係はまさにおっしゃるとおりで、色々な苦情を頂戴しております。これも地域性がございまして、元々が狭い道路を抱えている市でございまして、道路と歩行者を分離して、歩行者の安全な道路をつくるというのが難しい状況ではございます。ただ、この様な満足度の低い状態を私どもも突きつけられてございまして、できる範囲の中で、徐々に進めさせていただいて、将来的には観光客の方も市民の方も安心して過ごせるようなまちづくりを進めていきたいと考えています。そして、道路の関係は、今回の計画の中でも、今までの計画の中でもずっと満足度が低い項目です。それも承知をしてございまして、改善に向けて一歩でも進めるような形で、次の計画の中では盛り込んでいきたいと考えております。

また、世界遺産の関係ですが、確かに世界遺産につきましては、今回のランキングの中では厳しい形で結果が出てまいりました。ただ一方で、先ほどご紹介をいたしました市民ワールドカフェの中では、世界遺産というのがある意味、鎌倉市の活性剤になる、財政を立て直すための一つの材料となるというご指摘も頂戴しておりますので、そうした部分も含めて、皆様にご理解・ご協力を賜れるように、市としましても今後、啓発活動を十分に進めていきます。来年には世界遺産の可否が決まります。私どもは、それが可となると考えておるところでございしますが、世界遺産が確定をいたしましたら、世界遺産があるまちとして、ふさわしいまちになる様に基本計画の中でもしっかりと考えていきたいと考えております。

委員 私もこの重要度ランキング、満足度ランキングというのは大変重要なデータだと思います。ただし、アンケートは、ある意味で断面をスパッと切る手法ですので、言わずもがなのことながら「現在どう思うか」ということです。その一方、今回我々が検討するのは、いわゆる中長期計画というもので、その時間軸には大きな差があります。ヨーロッパの自治体などが典型的と言われますが、行政には計画高権がある。この計画高権の部分と現状のアンケートをどう調整していくか。そこが非常に重要ですし、ある意味、計画づくりの腕だと思います。したがって、今後、計画策定のプロセスで示されると思うのですが、鎌倉市が持っておられる「仮設」の検証や「構想力」、その構想力を前提とした「説得力」をどう確保するのか。それはもしかししたら、今の年代の市民の意見とはブレ・ブレがあるかもしれませんが、市民との対話を通じて埋めていくとか、あるいは、行政組織がフルに活動することによって説得していくとか、方法論は分かれると思うのですが、その様な材料として、アンケートあるいはカフェを使っていけば良いのではないかと思います。

会長 事務局に質問ですが、アンケート調査の結果と、スライド番号 45 の市民ワールドカフェ終了後のアンケートの結果で、違いがあるのですが、どうしてこのような違いが生まれたのだと思いますか。

幹事 先ほどのご説明の中でも少し触れさせていただきましたが、ワールドカフェの中で、私どもから厳しい財政状況などにつきまして、市長の言葉で説明をいたしました。そういった部分もございまして、市の財政を立て直すためにはどうしたら良いかという考え方で市民の皆様からご発言やご意見出しをいただいております。ワールドカフェの中の設問や、事前にこちらからご説明をいたしました情報を踏まえて、ワールドカフェの方はこのような結果になっているものと考えております。今回、観光や産業振興が、今までは無かった項目として出てきている訳ですが、背景にはそのようなことがあったのではないかと想像しております。

トーマツ 補足ですが、ワールドカフェの最後のテーマで、市長の目線に立って考えてくださいという投げかけ方をさせていただきましたので、そういったこともあり、市民意識調査の方は身近な、自分が住んでいることという目線なのが、ワールドカフェでは市にとってどうなのかという、かなり高い目線で見ているという違いが出ていると考えています。

- 委員 今の質問に関連するのですが、この回答だと、質問の投げ方によって如何様にも答えが出るということですよ。つまり、スライド番号 45 を仮に活かすのだとすれば、重要な取組は、というまとめ方ではなく、鎌倉の税収を上げるための意見としてはこうだった、という様なそういう限定を付けないと、このままで出されると非常に、なんと理解していいか分からなくなってしまう。その辺り、是非お願いしたいということと、このような分析は、やればやるほど色々な意見が出ます。色々な意見が出たからどうするのだ、その先の方が重要です。沢山集められた分析結果をどういかにして、どの様に計画に持っていくのか。その辺りの議論はされているのだろうと思うのですが、そのあたりどうされようとしているのか、ご紹介いただけますか。
- 幹事 前段のご指摘はごもっともだと思います。今後、こういったものを市民の皆様の前で説明する際は、そういう形で、設問でその様な話になったので、この様な結果になりましたという部分につきましては、十分ご説明をしたいと思います。そして、今までご説明しましたとおり、色々な形で市民の皆様、職員からも意見を聴いております。これらにつきましては、今材料が集まったところでございますので、私どもの考えとして、次の計画をこうしていきたいというところもございまして、それとそれらの意見がどう組み合わせるのか、それとも反するのかというところを十分分析をさせていただいて、素案としてまとめ上げていきたいと考えております。
- 委員 私どもの考え方はもうすでにある、というのならそれを出してもらいたいという気がしますよね。それが分からないので、こういうことが良いのか、方法が良いのか、表現の仕方が良いのかなど、そんなことしか言えないですね、我々としては。その様な審議会というのは、あまり楽しくないですね。
- 幹事 私どもの考え方は、以前ご審議いただきました、基本計画、それから基本構想の策定方針でございます。そのベースがあるという意味合いでございます。もう既に、計画の詳細まで決まっていて、皆様にお諮りしているという訳ではなくて、策定方針のベースがあって、その上で皆様と色々な方のご意見を頂戴して基本計画を作り上げていくという意味合いでございます。
- 委員 アンケートの取扱いにつきましては両委員がおっしゃったとおりだと私も思うのですが、私、教育委員会を代表して参加しておりますけれども、重要度ランキングを見ますと、ついこの間までスポーツも教育委員会が所轄しておりましたので、ほとんど 1 位を除いて 7 位までが教育委員会関係が、重要度が低いというのを目にしまして、なるほどという感じなのですが、その背景を見てみますと、先ほどのワールドカフェの出席者も、大半が 60、70 代の方で、20 代がゼロ、30、40 代は多少いるということと、この無差別の 2,000 人の内訳がちょっと分からないのですが、もう少し子育て世代や、若年層の保護者などが果たしてアンケートの結果に組み込まれているのかということをお聞きたい。もし、それができていないとすれば、例えば、学校現場を使って配付するなどの機会があると思いますので、このアンケートの結果も少し年齢的に偏りが無いのかということをお聞きたい。
- 幹事 今回は、無作為抽出で 2,000 人の方にアンケートをさせていただきました。無作為抽出でございますので、多少違う部分もあるのかもしれませんが、基本的には鎌倉市の年齢構成や性別などが縮小されたような形になります。お答えいただいた回答の方も、比較的鎌倉の人口構成のバランスを反映した形でございます。ですから、その分で、私どもが変な形でバイアスをかけたりといったことはございません。
- また、教育関係につきましては、10 位までの中には入っていないのですが、学校教育につきましては、比較的高い位置付けで重要だと言われている様な部分もございまして、必ずしも教育関係がすべて重要度が低いというご意見を頂戴したわけではございませんので、その点をご報告しておきます。
- 委員 今の委員のお話を伺って、ちょっと思い出したのですけれども、私、二階堂に住んでおりまして、二階堂の、60、70 代の昔から鎌倉に住んでいらっしゃる方が多くて、町内会などでお世話になることが多く、お話もよく伺うのですけれども、まず、世界遺産に高齢の方が総じて反対なのですね。私からすれば、まちが有名になって評価されるのは良いことではないかと思うのですが、これ以上有名になって人が増えて、渋滞したり、二階堂が汚れるのはもうまっぴらごめんだ、というのが非常に大きな意見としてあるのです。世界遺産にしたくないわけではなくて、それに伴って出てくるそういう問題に対して、非常に懸念がある。要するに、そこまで解決されるだろうという期待が全く無いんですよ。登録をしたらしっばなしみたいな、そういうイメージが皆さんあって、今回ワールドカフェに参加された 60、70 代が非常に多いとあって、今おっしゃった市民の構成を縮小した形でのアンケート結果だというのであれば、多分そうだと思うのですけ

れども、山田委員もおっしゃっていたように、人口を減らさないために子どもを育てていく、要するに、鎌倉でもっと若い世代を増やしていくために、未来の計画をしていくのであれば、今は人数が少ないかも知れませんが、その次世代を育てていく層というものに特化したアンケートというか、人口増を狙うのであれば、やはりそこをある程度加味していかないと、なかなか今の 60、70 代、人数が多いという意味での意見を大事にしていくというだけでは、ちょっと鎌倉的には足りないのではないのかと、しなくもないのですが。素人の意見で恐縮です。

幹事 私どもこのあと、一次素案ができた後につきましても、引き続き色々な方からご意見を頂戴したいと思っております。色々な各層のご意見を頂戴する場面は、また別に設けさせていただくというのも一つあるのですが、今現在行っています市民アンケートにつきましても、今この様な形でお示しをしていますが、例えば家族構成や年齢といった形で、この家族構成で見ると重要度・満足度はどうかという様なデータも、この後お示しすることができます。そういった中では、もしかしたら教育の部分、今、ランキングが低いものも、高いという形でデータのあり方が変わってくることも考えられます。次回以降は、そういったものもお示しながら、お話をさせていただきたいと思います。

会長 そもそも話をしてしまうと意味がないかも知れませんが、この重要度・満足度に関する 2 次元のアンケート調査を取るときに気をつけていただきたいことが、一般的にあります。少なくともこの様なアンケートを受け取ると、市民の判断だと、私も含めてですけども、どちらかというと行政サービスの受け手として反応するのです。要するに、生活に身近な分野、生活に身近であると思われる分野にどうしても票が入ってしまうのです。さらに、もう一つには、その時々重要なニュースになっているもの、時事的なテーマとなっている事柄に票が集まるのです。東日本大震災を受けて、その後、全国的に地震、防災対策に対する取組が叫ばれていますので、当たり前のように重要度が集まるのです。その様な傾向がどうしてもあります。ですから、ある程度バイアスがかかってしまいます。ひょっとすると、市民の皆様方は、私もそうなのですが、あまり意識していない行政サービスやインフラといったものについては、意識していないが故に、票が入らないのです。無かったら困るのですけれども、当たり前だと思っていると、重要かと聞かれると、どうしてもこういうことが起きてくるのです。ひょっとすると、学校教育などもそういう風に捉えられているかもしれない。だから、使い方が非常に難しいということがまずあります。そうであれば、どうするかということなのですが、より丹念に行うということになるのです。もう今更言っても仕方ないのですが、このアンケート調査をただアンケートに答えてもらうだけではなく、より深める場をつくり、もう一度できれば、それぞれの項目、更には鎌倉の現状、鎌倉の将来について話し合いをした後、理解が深まった後で、先ほどトーマツさんがおっしゃったかもしれないのですが、一市民という立場も良いのですが、それプラス、鎌倉市、市長の立場になると、財政などのバイアスが入ったりしますので、鎌倉市というレベルでお考えいただくような、イメージやビジョンを持っていた上で、アンケートに答えるという様なことがあると良いかもしれないです。そうすると、どちらがより正確なアンケート調査結果かという、後者の方になります。

今回それが、ワールドカフェである程度描けていれば良いのですが、とりあえず今日いただいている資料の中では、4 番目の問いについての集約化しか行っておられないので、何とも言えないのですが、年齢構成にやや偏りがある。ここは一応、留意しておくこととして、それまでの問いに関して、問いから出てきたものについて集約化するか、或いは全体を集約化するというのが不可欠になると思うのです。

それと、一番最後に“もしあなたが鎌倉市長になったらこれだけは進めていきたい、大切にしたいというのはなんですか”と言った時に、鎌倉市の税収確保のため、ということが入る様な状況、コンテキストだったのですか。私はこの日、参加できませんでしたので、全く状況が分からないのですが、その様に読み取って良いのですか。

幹事 事前に、財政の厳しさ等につきましても、ご説明を申し上げましたが、この問いとしまして、歳入を上げるためにという形で設問の用意はしてございません。単純に読んだままの設問でございました。

会長 つまり、この第 4 ラウンドの説明として、鎌倉市の税収確保が第一ですとか、税収確保が大事だと市長は考えておられますとか、その様なことは言っていないのですね。あるいは、この第 1 ラウンドから第 4 ラウンドの全体のワールドカフェを行う前に、鎌倉の財政の状況の説明はあったにしても、鎌倉市として税収の確保は近々の課題である、という様なことを最初に説明した上でワールドカフェを始めたのでしょうか。結構大事なことです。

幹事 はい、パワーポイントを使いまして、市の財政の状況が非常に厳しい状況にあるんだ

- ということは、市長からしっかりご説明をいただきましたので、ある意味ではそういった意識を持って、市民の皆様も議論していただいているとは思いますが。ただ、歳入確保のためにいろいろ考えてくださいという設問の仕方は、今回行ってごさいません。
- トーマツ
会長 説明の途中でも、特にそういったトーンは出していない。
ということになりますと、先ほどの事務局からの説明は、やや偏った説明、あるいは価値判断をしていると思うのです。要するに、歳入確保のためということで、第4ラウンドであった意見、アイデアが1位から3位までになっている、歴史環境あるいは観光、産業振興が重要な取組として挙げられているということですが、これは歳入確保のためということをも市民の皆様方がお考えになられて答えたというのが、多分バイアスがかかっていると思うのですが。これは、大事なことだと思うのですが。
- 幹事 まだ分析をしてごさいませんので、正確な分析はまた行いたいと思うのですが、当日書いていただいた、付箋にご意見を書いていただいて、それを一堂に集まっていたいて貼るという作業をさせていただきました。これが、実は6の分野の中のご意見として出てきた付箋の中に、お金を入れてかなければ駄目ですとか、歳入を確保しなくてはというご意見が多かったというご説明を申し上げました。言葉が足らず、申し訳ございません。
- 委員 先ほどの発言を別の言葉で繰り返して恐縮なのですが、アンケート調査にしてもワールドカフェにしても、これをもって、決して自縄自縛になってはいけないということを申し上げたかったのです。会長もおっしゃっていましたが、アンケートは瞬間的な調査であり、イベントに影響され易い。例えば、大きな事故が直前に起こったとすると、その影響がもろに強くでます。今、北海道で起こっている様に電力が全部止まってしまって、仮に翌日アンケートをすれば、課題はまずそれだ、といった話になる。つまり、この調査をいくら精緻に分析しても仕方がない部分がある、状況によっては大きく可変的であることをまず思い致しておくべきだと思います。本調査自体、あるタイミングでの断面を切ったものであると位置付ける。それとは別に、モデル(仮説)があり、そのモデルとの整合性をチェックする、それが大切だということは、市もコンサルタントの方も分かっておられると思うのですが、この点はぜひお願いしたいところです。
- 会長 私の言いたいことも同じで、少なくともこれは非常に大事なデータであるということは間違いのないのですが、この真意をどの様に組み立ててシナリオをつくるかということが、非常に問われているのだと思います。そこをきちっとやっていただければ良いと思います。
- 委員 運営会議の方からの意見として申し上げたいのですが、ワールドカフェ終了後のアンケートの4位に重要な取組として、「市民参画・協働の推進」というのが入っていて、ほっとしたのですけれども、スライド番号13の重要度ランキングの中では、重要度が低かった項目の中に、例えば5位の「生涯学習施設の整備」、「多様な学習機会の提供」、「学習成果の活用」、「地域に根ざした生涯学習の推進」、「コミュニティ活動の支援」など、学校教育ではなく、社会教育分野に関わるものが重要度が低いとされているのですが、これらがあって初めて市民活動、NPO活動に入っていっていらっしゃるメンバーの方がとても多いのです。ですので、そういうところも目配りをさせていただいて、市民参画・協働の推進、これら次期基本計画策定の視点の冒頭に、市民力・地域力の活きるまちづくりの推進というのを挙げられているわけですから、市民参画・協働を推進するためにも、生涯に渡って学び、学習成果を活用するという様な、そういうところの重要度を、今回のアンケートでは低くなっていますが、総括的に判断される時にはもう少し考慮していただければ良いと思います。
- 幹事 委員のおっしゃるとおり、今回、基本計画を策定するに当たりまして、市民力・地域力という言葉がひとつのキーワードとして、策定方針の中でも挙げてごさいます。確かに、今回のアンケートにおけるランキングは低くなってごさいます。ただ、先ほどご指摘いただいた様に、市民の皆様のワールドカフェの中でも非常に高位に挙げられています。私どもとしましては、今回の基本計画につきましては、市民力・地域力、それから協働、市民参画というキーワードは、どうしても外せないものだと考えておりますので、その方向性で計画策定の方はしてまいりたいと考えております。
- 会長 かなり時間が経っておりますが、まだパワーポイントの資料には後ろがございまして、よろしければ続きの説明に入りたいと思いますけれども、よろしいですか。
(了承)
- 事務局 それでは、事務局より、総括評価について説明をお願い致します。
現行の第2期基本計画総括評価のこれまでの取組につきまして、ご報告させていただきます。

資料は、スライド番号 5 からになります。また、資料 5 の次期基本計画策定に向けた施策体系の整理一覧表も後ほど説明の際に使わせていただきますので、ご準備いただければと思います。

第 1 回目の当審議会におきましても、委員より現行基本計画の評価につきましてご質問をいただき、その際にご答弁させていただきましたとおり、今回、第 2 期基本計画の総括評価を実施しております。この総括評価ですが、現行第 2 期基本計画の取組を評価、確認しまして、方向性を整理することで次の計画へつなげていくための作業として行っております。今回の総括評価の流れですが、大きく分けて、内部評価・外部評価の 2 つを実施しております。具体的には、9 月上旬から下旬にかけて、原局によりまず総括の内部評価を行い、10 月上旬にその原局に対するヒアリングを経て、10 月中旬から、11 月中旬にかけて、鎌倉市民評価委員会という組織によりまず外部評価を実施いたしました。結果につきましては、来年 1 月にまとめを行う予定でございますが、本日はこれまでの取組状況につきまして、ご報告させていただくところでございます。

総括内部評価ですが、9 月上旬の実施につきまして、庁内に通知をするとともに、作業内容に関する庁内向け説明会を実施し、1 カ月後に内部評価を実施いたしました。次に、今回の総括評価実施にあたってのポイントです。本市におきましては、毎年現行基本計画の毎年の進行管理としての評価を実施しております。27 の政策分野を対象とした施策進行評価を実施しております。今回の総括評価は、例年実施しております施策進行評価とは異なる評価対象で実施いたしました。具体的には、毎年の施策進行評価が基本計画の政策分野を対象として実施しているのに対し、今回の総括評価は政策分野に加えて施策の方針を対象として実施したという特徴がございます。現行の第 2 期基本計画の冊子の 4、5 ページをご覧ください。前回、それから前々回の当審議会においても、この部分は説明させていただきましたが、現行の第 2 期基本計画は、基本構想に掲げられる 6 つの将来目標と各将来目標に位置付けられる政策分野そしてその下にぶら下がっている施策の方針の 3 つで構成されています。毎年実施しております施策進行評価は、スライド番号 62 の赤で囲った分野を対象に実施しておりますが、今回の総括評価においては、この分野に加え、青で囲った施策の方針、分野にぶら下がっているさらに小さなまとまりの 2 つを評価対象として、従来の評価より、きめ細かな評価を実施したということです。

ただし、体系図をご覧くださいれば分かりますが、施策の方針は非常に分量が多くなっております。整理をすると、現在、第 2 期基本計画の施策の方針は、132 項目ございます。ただ、やはり中身は内容が類似しているもの等々もありますことから、今回、総括評価を実施するにあたり、一部整理を行いました。その施策の方針を整理しているものが、本日の資料 5 となります。一番左側が現行基本計画の施策の方針、真ん中が今回総括評価を実施するにあたり、ただ今、ご説明しました施策の方針でございます。4 ページの一番後ろにお示ししておりますとおり、132 項目の現行の方針に対し、総括評価にあたっては、87 項目に整理をして実施いたしました。一部、ご紹介させていただきます。資料 5 の 1 ページに、「③都市環境を保全・創造するまち」が下の方にあるかと思います。こちらの「みどり」という分野をご覧くださいればと思います。「みどり」分野ですが、5 つの施策の方針が現行の基本計画ではございます。ただ、この中の数字番号 6-2、6-3 は、同じ都市公園に関する内容です。この 2 つを、今回評価するにあたって、都市公園というひとくくりに関する取組ですので、評価にあたっては言葉としては残していますが、都市公園に関する取組を一つにまとめて、「みどり」分野としては 4 つの方針で評価を行ったということです。

また、施策の方針の整理にあたっては、類似の内容を統合するだけでなく、一つの内容に色々な内容が含まれている場合もあることから、細分化を行っております。資料 5 の 2 ページをお開きください。「④健やかで心豊かに暮らせるまち」の「健康福祉」分野について、現行基本計画では 5 つの施策の方針がございます。あと、この中の「9-2 地域生活の支援サービス」の中には、やはり高齢者福祉に関する内容や障害者福祉に関する内容等が含まれていることから、この「9-2 地域生活の支援サービス」を 2 つに分けて評価を行いました。同様に「9-3 健康と安心づくり」に関しても、同様の理由で、複数の要素が含まれていることから、それを整理しようという形で、単純に重複しているものをまとめるのではなく、評価しやすい単位で一部細分化するなど整理しまして、87 項目で評価を行いました。

こうした形で評価対象を整理し、実際評価にあたりましては、5 つの視点で評価を行っております。まず、現行基本計画策定時、平成 18 年度時点での課題を改めて確認するとともに、当然 18 年度以降に生じた課題もございますので、それらについても整理

を行いました。また、課題に対する取組方針や、取組状況の確認を行うとともに、基本計画策定時点で指標を設定していますが、その分析も行いました。今の4つの視点について、施策の方針ごとに評価を行うとともに、施策の方針を統合した、そのひとつ上のまとまりである政策分野ごとに、基本計画策定以降、平成18年度から23年度までの6年間の取組の評価を行い、今後の方向性についての整理を行いました。以上の様な内部評価の取組をまず原局で行い、導き出せない課題等もあることから、一度原局でのヒアリングも行い、内部評価の充実に努めました。

これらの取組を踏まえて、総括評価のさらなる客観性を高めるために、外部評価を実施いたしました。外部評価は、本市においては、毎年行政評価の取組において、外部評価を行っていただいている鎌倉市民評価委員会という組織にお願いしました。鎌倉市民評価委員会ですが、学識経験者の専門評価委員の方3名と、市民による市民評価委員5名の計8名で組織される委員会であり、通常は施策進行評価の外部評価を行っていただいておりますが、今回は総括外部評価をお願いしたということです。

鎌倉市民評価委員会による外部評価につきましては、10月中旬から11月中旬にかけて、計4回実施しております。外部評価の進め方だけでなく、分野ごとの外部評価の意見交換を行いました。外部評価といたしましては、対象を政策分野ごととしておりますが、意見交換では先ほど説明しました施策の方針ごとの評価についても、視点を持って議論を行っていただきました。委員会からは、非常に多くの意見を毎回頂戴しておりますが、一例として、例えば「健康福祉は分野内の施策が多すぎる。分割して位置づけを明確にすべきだ」という、先ほど施策の方針の整理でも説明したとおり、私どもが既に課題として認識している内容に関する意見だけでなく、「地域で支えあう仕組みを作るのが地域福祉であり、市民自治の視点で捉えるべき」という、私どもが少し気付いていなかった視点でのご意見、また、「世界遺産登録によって具体的にどのような姿をめざすのかを明確にしていくべきである」という、今後の取組方針に関する意見などを頂戴してございます。今後、来年1月にもう一度、鎌倉市民評価委員会を開催する予定です。そこで、総括外部評価のまとめを行い、それを踏まえて、総括評価、内部評価を含めた全体のまとめを行い、報告書を作成する予定です。取りまとめましたら、当審議会に報告させていただく予定です。

総括評価の結果につきましては、特に政策施策体系の整理や、今後の各施策の方向性、優先して取り組むべき施策の整理等を検討する際の材料として活用して、次期基本計画に反映してまいりたいと考えております。なお、資料5の一番右側に、改正素案として現在事務局で考えております、次期基本計画の施策体系を掲載しております。

こちらにつきましては、今後、アンケートやワールドカフェ等々の取組だけではなく、今の総括評価の結果等を踏まえて、庁内組織等で検討を行い、最終的な次期基本計画の施策体系を構築してまいりたいと考えているところです。以上で、総括評価に関する説明を終わります。

会長 ありがとうございました。それでは、この総括評価につきまして、委員からご質問があればお願いします。

会長 先程との関連ですが、スライド番号70において、鎌倉市民評価委員会の委員会からのご意見で、2番目と3番目、「地域で支えあう仕組みを作るのが地域福祉であり、市民自治の視点で捉えるべき」や特にその次の「世界遺産登録によって具体的にどのような姿をめざすのかを明確にしていくべきである」というのは、まさにそのとおりだと思うのです。世界遺産登録はもう、これは進めないといけないというわけであって、要するにこれを進めることによって、どの様な状態になるのか、どの様な姿になるのかということをも明確に示していかないと理解が得られないと思うのですが、これは非常に重要なご指摘かと思えます。このようなことが問われているのではないかと、という印象です。

事務局 ただ今、会長からお話がありましたように、これまでやってきました評価委員会の中では、世界遺産登録については、これまで登録をすべきということに全力で市がやっておりました。それについては、一定の成果がありました。ただ、大事なのは、この世界遺産登録をすることによって、市民の皆さんはどの様になるのか、例えば、先ほどからお話がありましたように、交通事情がどう変わっていくのか、或いは市はどのように観光客が増えるということを見ているのか、そうしたところをもう少し具体的に出していかなければ、やはり市民の方の不安、あるいは将来どの様に考えているのかというところの疑問というのは、なかなか解決しないだろうと思います。

また、それについては、色々なメディアを使い、できる限りお知らせ、周知をしていくという努力をしていかなければならないのではないかと、というのが世界遺産に関しての評

- 会長 価委員会の大体の意見です。
- 少しだけ意見を述べますと、世界遺産登録によって起こりうることにについて予測をするということは非常に大事なことと思うのです。渋滞がさらにひどくなるなど、確かにそれは大事なことだと思いますけれども、実はその先がもっと大事で、世界遺産登録を通じて、どの様な鎌倉市になるのか、或いはしたいのかという、或いはすべきでも良いのですけれども、それをきちっとビジョンとして示していく方がもっと大事だと思います。
- 幹事 ありがとうございます。今、会長がおっしゃったことはそのとおりだと思っております。ステージは違うのですが、世界遺産をめざして今、動いておりますが、前提としては来年の6月位に答えが出ますが、登録されることを前提に考えておりまして、「世界遺産のあるまち」ということをテーマにして、別の場で当然検討しており、それをまたお示ししていかなければいけないと思っております。そちらの考え方も、当然のことながら、この基本計画を作っていく際の一つの柱になっていくだろうと考えておりますので、それも次回以降の中でお示しできる場面になりましたら、お出しいたしますので、よろしくお願いしたいと思います。
- 委員 今の部長の説明で、来年6月に世界遺産登録になるだろう、私も100%なるだろういう気持ちではいるのです。そこで、世界遺産登録されるとなると、やはり、世界遺産を皆さんに知らしめるためのガイダンス施設というのは当然必要になってきます。今の話の中でも、ガイダンス施設というのは、具体的に、方向性、施設をつくる場所、扇ガ谷の方に5,000㎡だと思いますが、そこに既に取得される様な決定がされていますので、その様な施設を活用しながら世界遺産を皆さんに勧めていくという具体的な話を、決定と伝えているかは分からないのですが、その様な方向で進んでいるということは事実でございますので、もう少し皆さんに知らしめて、世界遺産登録となるとこの様なガイダンス施設もできます。そして、世界遺産としての武家の古都・鎌倉ということを皆さんに知らしめていく、具体性もあるということ、やはり世界遺産登録云々という中で具体的にどの様な姿を進めていきますか、という中では、それも一つの大きい取組案ではないかと思うのです。
- そして、交通問題などは色々出てくると思います。平泉にしても、世界遺産登録になれば数年は観光客が2割、3割増えてくるという、これはもう実態としてありますので、それに対しての交通政策は、やはり進めていくべきものだという事は、これはもう市の方としても分かっている様ですので、今、私が言ったところも強調していけば、具体性という部分では一つあるということと言えると思います。
- 委員 今、外部評価委員というものが、これまでの総合計画の見直しの総括をおやりになって、資料5として改正素案というものが出ています。施策の方針が現行基本計画で、それを評価するために集約され、それを検討した結果、改正素案という形になっています。これは新しい計画で、これに置き換わると考えて良いのですか。
- 事務局 委員ご指摘のとおり、体系図を整理し直す、その前提となる資料が資料5であると理解いただければと思います。
- 委員 これは、大変重要なことで、次期計画の基本的な政策・施策体系が、実は総括評価、外部評価だけではないですが、内部評価と外部評価でできあがっているという意味で、今までのアンケートやワールドカフェとは別の体系から出てくるとおっしゃっているわけです。まず、そここのところが、どの様なことになるのか伺いたい。
- そして、策定方針では、市民と行政と事業者と皆の協働によるということが大変重要だという考え方が書かれていますが、これを読む限り、改正素案からそれが一切抜け落ちてしまっています。例えば、資料5の「7-1 都市景観」の“市民・事業者・NPO等との協働”が抜け落ちています。多分、都市景観事業の推進の中に入っているという答えだろうと思うのですが、それは消してしまったということですね。また、例えば3ページの「市街地整備」の中でも同じ様に消えてしまっています。それでは、全てその様な扱いかというところでもなく、いくつかについては計画の前提に持っているわけですが、改正素案は、次期総合計画の体系の中心部分であるということ、何で説明の時におっしゃらないのか分からない。その確認をしたい。基本方針にはまさに、ハードという全体も含めて、市民と市民の地域力が大変重要なんだとおっしゃっているが、この素案の施策体系からはその部分がそっくり抜け落ちてしまっている。一体どういうことか、説明を求めたい。
- 幹事 説明が前後してしまった形で大変申し訳ございません。例えば、この体系表の4ページの後ろに市民参画・協働やコミュニティの項目が、改正案の一番右側では白紙になっております。この部分につきましては、また後ほどご説明をする予定でしたが、この改正素案につきましては、今回、庁内の総括評価を行うために分野だけではさすがに評

価値が仕切れないだろうということで、少し詳細な評価をしたいという意味合いで、整理を行ったものです。ただし、この整理が、今後、基本計画を見ていただき、進行管理をしていく上で、この分野の切り分けが、非常に皆さんに見ていただいても分かりやすいですし、進行管理もしやすく、かつ計画書にしたときも、一つ一つの施策、例えば市民の皆さんが関心を持った施策がどこに入っているかというのを見ていただく上でも非常に分かり易い切り分けになっているだろうということで整理させていただきました。勿論、これは事務局案ですので、今後、庁内で検討していく中で変わってくるものでございますし、やっと集まりました市民の皆さんのご意見等も頂戴しながら変わってくる予定です。

そして、市民参画・協働の部分がなぜ消えてしまったかというご指摘ですが、市民参画・協働という考え方につきましては、先ほど委員の質問にもお答えしましたが、今の基本計画の中にもそうした項目が書いてあるのですが、私どもはこれをさらに強化していかなければならないと考えております。これまでの基本計画では、あちこちで統一性がなく、協働の部分が書き込まれている部分があるのですが、今回につきましては、基本計画を推進する上での基本的な考え方という位置付けで、異なる章に市民参画・協働、それから市民自治について厚く触れていきたいと思っております。そういった意味合いもあり、この部分からは外させていただいたところであり、この部分が縮小されたかということではありませんので、その点につきましては、後ほどご説明させていただきます。

会長 それでは先に、その部分をお話いただいた方がよろしいですね。計画書のイメージについて、ご説明いただけますか。

事務局 それでは、次期基本計画書の構成について、説明させていただきます。スライド番号73は、現在検討しております次期基本計画書の構成案と現行計画書の構成の比較を行ったものでございます。この比較を行うにあたり、まず、現行基本計画の構成について簡単に説明した後に、ここからどのように変更するのかということをお説明させていただきます。

始めに、現行基本計画の構成の説明になりますが、基本計画書の冊子ですが、これに沿ってご説明させていただきます。まず、前文に平和都市宣言、鎌倉市民憲章、市の花と紹介があり、1～3 ページにかけて、市勢発展の歩みや総合計画策定の背景の目的といった導入の部分がございします。その後、導入部分を受けて、8～13 ページで、総合計画の第1編として、基本構想がございします。そして、この後、16 ページから、第2編として、第2期基本計画の記載が始まりますが、第2期基本計画では16 ページからの第1章に、計画の前提がございします。これは、基本計画を進める上で土台となる方針と、本市がおかれている基礎条件が示されております。次に、23 ページから、第2章として、まちづくりの展望が記載されています。この章は、基本計画の中心となっているものであり、基本構想の6つの将来目標がございしますが、これを達成するためのそれぞれの政策分野、計24項目における現状と課題、目標、施策の方針を記載していくという章になっています。そして、85 ページから第3章としてライフステージ別まちづくり方針がございします。これは、先ほどの第2章で記載された施策を市民のライフステージという視点で、再編・再掲としたものとなっております。したがって、中身としては、第2章に記載されたものを再掲したものだということです。その後、102 ページになりますが、第4章として、リーディングプロジェクトがございします。これは、子育て支援、安全・安心なまちづくりなど、基本計画の計画期間内において、先導的に進めていく行政課題が示されています。最後、115 ページからは、第5章として計画の推進という章があります。これは、基本計画の推進力として、市民や地域の力が十分に発揮される様に、市政が行う支援策を中心に示されています。市民参画・協働も、ここに示されております。この後に、資料編が続きますが、今回は割愛をさせていただきます。ここまでは現行基本計画の構成です。

続いて、次期基本計画の構成の説明をさせていただきます。これは構成案ですが、まず、導入から基本構想までは、現行と同様に巻頭に記載していきます。その後、計画の前提を位置付けております。現行基本計画でも計画の前提となっておりますが、この中では、現行基本計画では、市民自治、行財政運営、基礎条件が入っていましたが、このうち、基礎条件、これは人口、土地利用、環境というものがありますが、これに加えて、財政状況を示し、これを客観的な事実として、計画の前提として示していこうと思っております。

そして、次の章は、計画の推進に向けた考え方となりますが、こちらでは現行基本計画では、計画の前提の中の市民自治、行財政運営、また、最後にありました計画の推

進、こちらは全分野に渡って横断的に考えていかなければならないという、まさに推進に向けた考え方として持っていかなければいけないという内容になりますが、これを整理・統合して、計画の推進に向けた考え方として、章として置いております。内容に関しては、市民自治、行財政運営、そして世界遺産、世界遺産は登録されることを前提としておりますが、こちらを横断的に持っていかなければいけない考え方として載せております。市民参画・協働や地域コミュニティ、地域福祉は、市民自治に入ってきたり、今、話題となっている公共施設の再編については、今後の公共施設のあり方を考える必要があるというところから、行財政運営に入っていくことになっています。

次に、まちづくりの展望、これは先ほど申し上げたとおり、計画の中心となってくる部分でございます。こちらに関しては、基本的には、施策に関する記述ということで同様の内容ですが、構成などについて変更していきたいので、こちらは別のスライドで説明させていただきます。まちづくりの展望の冒頭に重点施策、こちらは現行基本計画においては、リーディングプロジェクトという先導的にやっていかなければならない事業を示しておりましたが、これは全て現行基本計画の中では、全ての事業をやっていく中でまずやっていく先導的という事業で、リーディングという言い方をしておりましたが、今回に関しては、今回の次期基本計画に関しては、どれを強くやっていくのかという選択出てくるということで、少し呼び方を変えて重点施策として、まちづくりの展望にある施策全ての中で、何をやっていくのかというところを記載する内容になっています。以上が、全体の構成についての説明になります。

続いて、まちづくりの展望部分の変更箇所ですが、簡単に変更点を書かせていただいたのですが、現行基本計画では、政策分野毎にページを作成しております。例えば、現行基本計画冊子の 40 ページを開いていただきますと、「生活環境」の分野があります。この分野で記述をしているのが現行です。こちらは、「生活環境」という中で、色々な課題があったり、施策があり、煩雑になってしまったり、少し見づらいのではないということもあり、課題になっておりました。次期基本計画については、一つ下の施策の方針毎にページを作成していきます。今、資料 5 で整理をしているところですが、この施策の方針毎に、次期基本計画のページが作られていくイメージです。こちらはまだ、現在整理を行っていますので、今後整理をして、改めてお示しをしていくことになるかと思います。

実際にどのようになっていくかは、スライド番号 77 をご覧ください。分野名が書いてあり、その中の施策の方針の名前がタイトルです。①分野名、②施策の方針がタイトルでございます。その下に、簡単に施策の方針がどのようなものを一文で書いたものがございます。左上部分④は、施策を取巻く状況ということで、現状を書いております。これは、現行基本計画では、現状と課題が混在して書かれてあったのですが、まずは、どんな状況があるのかという現状を書いていきます。続いて、⑤では課題を示しております。これは、今までありました、現状と課題の中の課題であり、今どんなことが課題になっているのか、当然、現行基本計画からの引き続きの課題もありますが、さらに、今後解決していくべき課題も追記しております。

続きまして、右上に⑤めざすべき将来の姿がありますが、これは、将来の鎌倉はどのような姿になっているべきなのか、どのような姿をめざすべきなのかを記載していく箇所になっています。そして、右下の⑥では、そのためにどのような取組を行っていくのかを記載します。この様なページ構成で、全ての施策の方針毎に作成してまいります。次期基本計画の構成についての説明は以上です。

会長 それでは、ただ今の説明につきまして、委員の方からご意見やご質問はございますか。

委員 確認ですが、先程、私が発言しました、消えているのではないかという部分は、6つの将来目標には入りませんよね。どこに入るのですか。市民と行政の協働や地域力を上げて自ら自立するという話は、どこに入るのでしょうか。

幹事 市民自治の中で基本的な考え方について、書かせていただきます。計画の推進に向けた考え方の章は、その下にありますまちづくりの展望で、色々な施策の展開を書かせていただくのですが、これらの施策を展開するにあたり、必ず市民自治の中には地域コミュニティの関係や協働の関係も含まれるわけなのですが、まちづくりの展望の中に含まれる一つ一つの施策を考える際に、必ずそれを念頭に置いて、施策の構築をしてもらいます。行財政、世界遺産も同じです。この計画の推進に向けた考え方というのが、今回の目玉の一つになっておりまして、ここでしっかり鎌倉市がこれから進めていく上で考えなくてはならない理念を書き込んでいきたいと考えております。

委員 一般に、私も色々な市町村の計画を見ることが多いのですが、考え方というのは置い

ておいて、いきなり重点施策は何かという見方をするケースが多いのです。そうすると、このままですと、そういう見方する人は、すっかり抜け落ちてしまう恐れを感じるのです。丁寧に基本計画を全部読めば良いのですが、中々そんな暇もないものだから、その様な読み方するケースも多い。そうすると、市民自治という考え方ではなくて、実際にそのことが一目分かる様な表記、特に分野を皆さん見ると思うのです。これをコピーして、どうかという扱いを多分されるのだけど、それにそういうものが出てこないということになると、非常に問題という気がするのです。そここのところを、少し工夫してもらえると良い気がします。

幹事 今回お示ししておりますのは、あくまでも現在の事務局案です。これから、色々ご意見を頂戴して、勿論、審議会のご意見も頂戴する中で、より良いものに変えていくということです。いただいた意見につきましては、今後の課題とさせていただきます。

会長 関連ですが、工夫をしていただくことは当然必要だと思うのですが、考え方のところで、市民自治、行財政運営、世界遺産という3項目があり、具体的に、市民自治がどの位進んでいるのか、または、市民自治がどの程度進むことによって各重点施策に掲げられている目標が達成されていくのか、つまり市民自治がどの程度進んでいるか、或いは、どの位貢献したかということなどをどこで見るのかということなのです。もっと言いますと、資料をいただいているのですが、評価委員会で、例えば、次期基本計画の進行状況について評価をすると思うのですが、その委員会が、市民自治について評価できる仕組みになっているのかどうか、ということなのです。完全に考え方だけで、言葉だけで書き込まれているだけだと、評価のしようがないので、完全に抜け落ちる危険が大きいと思うのですが、そうではなくて、きちっと測定できるように、それは市民自治単体のみか、まちづくりの展望に書かれている重点施策の中で市民自治がどれくらい貢献しているのかという貢献度なのか、どちらかは分かりませんが、いずれにしてもチェックできるような仕組みを考えていただかないといけないと思うのです。

幹事 ご指摘のとおりだと思います。市民自治というのは、今私どもの考え方の中では、基本的な考え方ということで、一つの項目にしております。ただ、施策を今後の展開を評価していく上では、それぞれの施策の中で、市民自治の視点についてはどの様な考え方で、どの様な形で具現化されているのかなど、一つ一つの事業の進行を測る上で、その様な視点を必ず持っていくというやり方は可能かと思っておりますので、検討していきたいと思っております。

委員 改正素案を見ますと、従来の現基本計画の施策の方針なんかもそうなのですが、語尾の、例えば「平和推進事業の充実」、「人権施策の充実」、「男女共同参画の推進」、「多文化共生の推進」、「国際交流・協力活動への支援」で、具体的に“充実”と“推進”はどう違うのか、“整備”と“管理”はどう違うのか、“整備”がなければ施設の整備、例えば「文化施設の整備」というのが、文化のところにありますけれども、これが改正素案では「文化活動の支援・推進」となっています。そうすると、先ほど話題になりました、世界遺産のガイダンスセンターなどは、どの様な位置付けになるのかなど、色々な言葉が並んでいると思いますので、語句の整理をしていただいて、“充実”とはこういうことを示す、行政用語の整理といいたいでしょうか、それを示していただいた方が、市民としては分かり易いかと思います。

幹事 ありがとうございます。私ども、今現在使われている言葉を、できる限り踏襲した形で書き込んでおります。確かに市民の皆様にとって、分かり辛い言葉などありましたら、そういった部分については改善していきたいと思っております。また、その言葉の中に含まれる事業につきましては、今回、見開きの中で、どういったことがなされるのかということが、今までのものよりも事細かに説明していくつもりでおりますので、その中で読み取っていただくことも可能かと思っております。

委員 事細かに読まなければ分からないというのではなく、共通した言葉の意味というか、市民と行政が共通した言葉を使えるような仕組みを、是非この総合計画の中で示して欲しいということなのではないかと。

幹事 ありがとうございます。検討させていただきます。

会長 いわゆるお役所言葉ですね。これを何とかして欲しいということです。

委員 今回の様に、防災或いは減災ということになると、自分達が自分の身を守り、或いは、近所の人達がお互いに声を掛け合って逃げていこうという様な、どちらかというと市民自治というテーマコミュニティと言われる様なケースが多いのですが、今言ったような形で、近所の人達が何とかしようという地域力、地域コミュニティというテーマになるのです。私、残念ながら鎌倉ではそうした議論あまりよく知らないのですが、私がいる関

西の方では、いわゆる都市内分権ということで、まちづくり協議会などを幾つも作り、かなり権限も財源も与えて、まさにその人達が自ら地域を経営するという含めて、力を非常に付けていくことをしているところが非常に最近増えています。関東の方でも多分、大和市などではそれで相当な成果を上げていることを聞いています。そうした視点の議論が今一切出てこないのですが、地域力や市民力など、鎌倉一本の話ではなく、今回の様な、地震、いわゆる安全を地域で守ろうといった場合には、そうした問題が出てくると思うのです。そういう視点の検討も是非どこかで一度議論してもらいたいという気がするのです。

幹事 今のご発言に対する、今現在の現状につきましてご説明申し上げます。地域コミュニティの活性化というのは、鎌倉市としても、従来からの課題になっております。今現在、地域のつながり推進課というセクションを設けまして、そこで、今おっしゃっていた地域の協議会の立ち上げの検討を進めており、組織としては動き始めております。近隣ですと、藤沢市がそういった動きをしておりますので、鎌倉市でも今後の課題と思っております。また、こうした取組が、あちこちで進んでいくことが基本計画の推進力となってくるものと思いますので、基本計画の中でも、市民自治という中で、コミュニティにつきましては、しっかりと書き込みをしまして、具体的な事業が進められるようにしっかり見ていきたいと思っております。

委員 この6つの分野のどこに入るのですか。それぞれみんな入ると言われてしまうと、中々分かり難いんですけど、今言ったその組織を作っておやりになっているというのは、どこに記述されることになるのですか。

幹事 地域の活動については、例えば防災であれば防災という形で、それぞれの施策があることはあるのですが、テーマを区切らない地域コミュニティということになると、おっしゃるとおり、この中には適当なものはないのかもしれませんが、ただ、そうは言っても、地域コミュニティの取組は鎌倉市としても進めていくことになっておりますので、例えば、一つの方法としては、市民自治という項目の中で一つ、地域コミュニティの具体的な事業を実施計画として位置付けるという方法もありますし、例えば6つの取組の中にはありませんが、重点施策の中に取り入れるというという様な考え方もございます。どちらにしましても、このやり方が全てではございませんので、もし、不都合があればそれは変えていく形にはなりますし、この中でうまく仕組を作り、取り組んでいきたいと思っております。

委員 7番の計画の推進の中がそれらしいですね。

幹事 はい、そのとおりです。

委員 6つの将来像に挙がってこないのですね。そこがちょっとひっかかる。そこは、工夫をお願いします。

幹事 はい、了解いたしました。

会長 いかがでしょうか。大分時間が過ぎてしまいました。議題(1)については、了承でよろしいでしょうか。

(了承)

議題(2) その他

会長 それでは、議題(2)その他ですが、事務局から何かありますか。

幹事 事務局から次回の日程につきまして、ご説明申し上げます。スライド番号 79、80 をご覧ください。今現在、私どもの方で第一次素案に向けた作業を進めているところですが、残念ながら少し遅れ気味という状況です。本来ですと、これまでお示ししていた12月に当審議会を開かせていただき、第一次素案についてご審議を始めていただく予定であったところなのですが、これを1月の初旬に変更させていただきたいと思っております。ただ、私どもの方も一次素案につきましては急いで作る体制をとっておりますので、12月中には必ず案を皆さんのお手元にお届けをして、お目通しをいただいた上で1月上旬の審議会に臨んでいただける様に準備させていただく予定です。

それから、日程につきましては、1月の初旬と私ども勝手に決めています、委員の方々の日程を順次いただいておりますので、それを見させていただき、皆さんがなるべくご出席いただける時間、日にちと時間を選ばせていただき、ご通知を差し上げたいと思っております。既に、日程調整表をお送りしていますが、もしお手元にごございましたら、後程事務局にご提出いただければと思います。以上です。

会長 この件について何かございますか。

(質問・意見なし)

(案)

- 委員 誠に勝手ながら、「図書館とともだち」という私の会の会報を入れさせていただきましたので、ご覧いただければと思います。155 号の 3 ページでは、鎌倉市総合計画審議会のご報告しておりますので、手違いはないと思いますが、チェックをお願いいただければと思います。また、156 号では事業評価がされまして、図書館がその対象になったわけですが、その報告と事業評価に携わられた南さんを囲む会をいたしましたので、その報告を、そして、話題になっております公共施設再編計画策定委員会を会員が傍聴し、その傍聴報告等も載っておりますので、お目通しいただければと思います。ありがとうございました。
- 会長 最後に、第 2 回、3 回会議録ですが、よろしいですか。
(了承)
はい。ありがとうございます。
以上で、第 4 回総計審を終了します。どうもありがとうございました。

以上